

# 邪馬台国関連年表

西暦	日本の出来事	西暦	世界の出来事
一世紀頃	弥生時代後期。稲作が広く行なわれるようになる。	二五年	後漢の成立。
五七年	奴国王が後漢へ遣使、金印をもらう。(漢委奴国王)	七九年	火山の噴火でポンペイ市が埋没。
一〇七年	倭国王師升らが後漢の安帝に接見を願い出る。	一一七年	ローマ帝国の領土が最大となる。
二世紀後半	倭国大乱。国同士で相争う。	一四〇年	インドのクシャーナ朝でカニシカ王が即位。
三世紀初頭	卑弥呼が倭の女王となる。	二〇八年	赤壁の戦い。
二二九年	女王卑弥呼が魏に遣使、「親魏倭王」の金印をもらう。	二二〇年	後漢滅亡、魏・呉・蜀の三国が鼎立。
二四三年	卑弥呼が再び、魏に遣使。	二二六年	ササン朝ペルシア成立。
二四七年	三月二四日、皆既日食が起こる。	二二四年	諸葛孔明が病死。
二四八年	卑弥呼が死去。九月五日、再び皆既日食が起こる。	二五一年	司馬仲達が死去。
二六五年	倭の女王が晋に遣使。	二五二年	呉の孫権が死去。
三三〇年頃	大和朝廷が国内をほぼ統一。	二六〇年	エデッサの戦いで、ササン朝ペルシアがローマ帝国を破る。
三七二年	百済が倭王(垂仁天皇?)に七支刀を贈る。	二六三年	魏が蜀を滅ぼす。
三九一年	日本が朝鮮半島で高句麗と戦う。(この頃、任那日本府設置)	二六五年	魏が滅び、晋が成立。
四七八年	倭王武(雄略天皇?)が宋に遣使。	二八〇年	晋が呉を滅ぼし、三国統一。
五一二年	日本が任那四県を百済に割譲。	二八〇年	この頃、『魏志倭人伝』が書かれる。
五六二年	任那日本府が新羅により滅ぶ。	三三五年頃	朝鮮半島で百済建国。
五九三年	推古天皇が即位、聖徳太子が摂政となる。	三四六年頃	朝鮮半島で新羅建国。
中略		三五六年頃	フン族の進出で、ゲルマン民族大移動。
一七二六年	徳川吉宗が將軍となる。	三七五年	鮮卑族が北魏を建国。
一七八四年	新井白石が『古史通或問』を著し、邪馬台国について論ずる。	三八六年	ローマ帝国が東西に分裂。
一七九六年	志賀島で金印発見。(漢委奴国王)本居宣長が『馭戎概言』を著し、邪馬台国について論ずる。	三九五年	西ローマ帝国が滅ぶ。
		四七六年	ローマ法大全が完成。
		五三三年	隋の建国。
		五八一年	隋が陳を滅ぼし、南北統一。
		五八九年	中略
		一七一九年	デフォーの『ロビンソン・クルーソー』が出版。
		一七八六年	モーツァルトの『フィガロの結婚』初演。
		一七八九年	ワシントンがアメリカ合衆国初代大統領に就任。フランス革命勃発。

## 「邪馬台国」とは...

「邪馬台国」は、今から約千八百年前、弥生時代後期の日本にあつたとされる国で、一般的に「ヤマトイコク」と呼ばれています。中国の歴史書『三国志』の中の魏書東夷伝倭人条、いわゆる「魏志倭人伝」に、倭国(日本の古称)の女王卑弥呼(ヒミコ)が都として治める国、と記されています。

古代日本においては、正確な暦年のわかる記録・歴史書がなかったため、時代が下るにつれて、邪馬台国と女王卑弥呼は謎の存在と化していききました。『日本書紀』では、邪馬台国は大和朝廷であり、卑弥呼は神功皇后と推定されています。そして約千年後の江戸時代になると、新井白石や本居宣長らがそれぞれ自説を発表し、この時から邪馬台国と卑弥呼についての研究の歴史が始まりました。

「邪馬台国はどこにあつたのか?」「卑弥呼は誰なのか?」歴史学、考古学をはじめ、統計学、金属工学、天文学、様々な角度から連綿と研究が続けられ、様々な説が発表されています。また、文学や映画、漫画等でも題材として取り上げられ、多くの人々が関心を寄せています。邪馬台国は、まさに「日本史上最大の謎」と言えるでしょう。

